
クスノキと少年

かみたか さち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クスノキと少年

【Nコード】

N8078Q

【作者名】

かみたか さち

【あらすじ】

公園のほとりに立つ、年老いたクスノキ。ある日、一人の少年が話しかけてきます。毎日クスノキのもとに来るのに、他の子どもに混じれない少年を、クスノキは見守ります。寒い風が吹いた翌日、少年は現れませんでした…。

小さな公園のほとりに、一本のクスノキがありました。もうずいぶんな年寄りで、いつも昼寝ばかりしていました。

ある冬の夕方。クスノキがうつらうつらしていると、足元にひとりの少年が立って、こちらを見上げていました。近所の小学生でしょうか。

「初めまして、クスノキ。登っていい？」

クスノキは、そっと枝先をゆらしました。少年は、自分の顔の高さに伸びた一番下の枝までえんりよがちに登ると、こしを下ろしました。足をぶらぶらさせながら、むこうの遊具で遊ぶ子ども達をぼんやり見ていました。

次の夕方、また少年が来ました。

「こんにちは、クスノキ。今日も登るね」

少年は、ざらざらした幹に手を当てると二番目の枝まで登り、そこに生えていたコケをむしっては、地面に落として過ごしました。

次の日は三番目の枝まで登り、ポケットから取り出した紙飛行機を飛ばしました。紙飛行機は風に乗って、遊具の近くへ落ちました。

そうして一か月ほど、少年は毎日のように、夕方になるとクスノキに会いに来ました。

ある冷え込んだ次の日、少年はやってきませんでした。クスノキは日がくれるまで待っていました。とうとう少年は現れませんでした。次の日も、そのまた次の日も、少年は来ません。

それから一週間くらいたった、ある昼下がり。クスノキがいつものようにうつらうつらしていると、なつかしい足音が近づいてきました。

「ひさしぶり、クスノキ」

こつん、と幹に、少年の背中があたりました。少年は、数回せきをした後、首をのけぞらせてクスノキを見上げました。

「お医者さんがね、明日から学校に行けてさ」

ため息をつく少年に、クスノキは、じっとだまっていました。

すると、かたかたという音が近づいてきました。ランドセルを背負い、帽子をかぶった少年が、かけてきます。

「あ、やっぱり佐々木くんだ。転校生の」

かけよった彼に笑いかけられ、少年は、顔を赤くしてうつむきました。でも、帽子の少年は、構わず彼の顔をのぞきこみます。

「ずいぶん長く休んでるね。カゼ、もう治った？」

「う、ん。明日から、学校、行く」

「そっか」

帽子の少年は、歯を見せて笑いました。それから、ちょっと真面目な顔になって、

「ね。明日来れたら、紙飛行機の折り方、教えてよ。佐々木君が、休む前に作ってたやつ」

と、顔の前で両手を合わせました。

少年は、もじもじしたあとに、小さくうなずきました。

帽子の少年はまた笑顔になり、約束だよ、とランドセルをゆらし、遠ざかりました。

少年は、彼を見送った後、くるりとクスノキのほうをむきました。そして目を細め、

「ばいばい、クスノキ」

笑って手を振りました。

クスノキは、優しく枝をふるわせました。

数日後。クスノキの枝の間からいつせいに、たくさんの紙飛行機が飛び出しました。

楽しそうな笑い声にのって、紙飛行機は風の中をすべっていきました。

(後書き)

2011年2月、某新聞の童話コーナーに、創作童話サークル活動の一環として掲載

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8078q/>

クスノキと少年

2011年10月8日17時23分発行